

令和4年度第1回鳥取市総合企画委員会（10/24開催）  
委員事前意見一覧

| No | 項目   | 委員名  | 意見・質問  | 回答   | 担当部局  |
|----|--|------|--|--|-------|
| 1  | <p>&lt;資料2&gt;<br/>第2期鳥取市創生総合戦略の令和3年度実績について</p> <p>Ⅱ. 誰もが活躍できるしごとづくり</p> | 坂本委員 | <p>『稼ぐ地域・仕事と安定した雇用環境づくり』に於いては「コロナ禍」の影響により、遅延を余儀なくされている指標・目標が多く見られる。「コロナ後」を見据えてコロナによって知らされた従来の施策に関わるヒントは何か？また最近の国際関係の変化や東アジア地域の進展を分析して各施策を見直して再構築するべき点は何かを考えていただきたい。遅延原因の分析が不足。</p> | <p>回復基調にあった我が国の経済は、コロナの世界的な感染拡大で、その状況は大きく変化しました。グローバル化の進展と製造業のサプライチェーンの国際化（国際分業化）の流れは、コロナ禍によりグローバルサプライチェーンの停滞・寸断や半導体ショックなど、その弱点が大きくクローズアップされる形となりました。また、拡大傾向にあったインバウンド需要もコロナ禍での入国制限により、人流は停止し、経済への大きな打撃となりました。今年に入ってからは、円安の大幅な進行やロシアとウクライナ、台湾と中国をめぐる情勢など地政学的なリスクも大きくなってきており、我が国を取り巻く環境は予断を許さない状況となっています。</p> <p>このような中で顕在化した課題としましては、①ビジネスや生活様式の変化（DX化の加速）への対応、②輸入コストの上昇（特にエネルギーと食料）によるインフレへの対応、③経済成長率の低迷（国際競争力の低下）への対応、などが挙げられると思います。本市におきましては、これらの課題に対応していくために、地元事業者のDX化への対応や、労働生産性の向上に向けた取り組みに対して支援を行うとともに、特にインフレが顕著なエネルギーの問題に対しては、エネルギーの地産地消を推進するための取組にも重点的に取組んでいくこととしております。今後も、地元企業や経済団体等と連携し、必要な施策について取組を進めてまいりたいと考えております。</p> | 経済観光部 |
| 2  | <p>&lt;資料1&gt;<br/>第11次鳥取市総合計画の令和3年度実績について</p> <p>人が行きかい、にぎわいあふれるまち</p>  | 坂本委員 | <p>全国均一のワーケーションゲームは一時的なものとする。補助金を投入した施策の継続性について現状を分析し、課題を共有すべきと考える。</p>  | <p>本市では、全国均一で行われている、ワーケーションを主体としたワーケーションではなく、地域と繋がり、地域の取組を学び、継続的に地域の取組に関わっていく人を増やしていくための手段として、ワーケーションを推進してきました。</p> <p>令和3年度は、市内外の企業がテレワークやワーケーションができる環境を構築するため、民間が実施するワーケーション拠点整備を支援する補助制度を創設し、それを活用し本年5月に鳥取砂丘西側に「SANDBOX TOTTORI」がオープンいたしました。</p> <p>SANDBOX TOTTORIでは、ワーケーションによって市外と市内の人材が交流し、地域課題を解決するための意見交換の場を創出する取り組みを進めております。これらは、単に意見交換だけで終わるのではなく、ワーケーション後も継続して本市の取組に関わっていける仕組みを目指しており、関係人口の拡大にも寄与するものと考えています。</p> <p>今後も、このようなワーケーション拠点で実施される取組を本市として継続して支援していくことで、本市の取組に参画する機会を増やし、デジタル関係人口や、地域活性化に取り組む人口の増加に繋がるよう、取り組んでいきたいと考えています。</p>   | 経済観光部 |